

「2022年度国立台湾大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学文学部1年 砂川夏海

この三週間の台湾への短期留学は、私にとって大変有意義なものとなった。元々は中国語を学ぶために応募した留学だが、慣れ親しんだ日本とは異なる台湾という場所で、それ以外のことについても多くのことを学ぶことができたと思う。その中でも、以下の三つについて取り上げたい。

一つ目は、語学の楽しさを再認識できたことである。国立台湾大学主催の語学の授業は、文法をただ習うのではなく、習った文法事項（構文）を使って音読や会話練習を積み重ねる、という方式で行われた。そのお蔭で、知識としてではない実践的な中国語が身についたと思う。また、授業で学んだ中国語を日常生活で活用する機会もたくさんあった。実際に台湾の方とコミュニケーションを取れた時はとても嬉しかったし、そのことがモチベーションにもつながった。特に印象に残っているのは、ロシアから台湾大学に留学しているミハイルさんとの交流である。ミハイルさんは、ロシア語・英語・中国語を流暢に話し、かつ日本語を勉強中の学生であった。私も大学ではロシア語を履修しているため、話しかけて仲良くなり、たどたどしいながらも中国語と英語、少しだけ日本語・ロシア語で会話をすることができた。お互いに言語学に興味があるということもあり、会話が非常に楽しかったのを覚えている。自分の力で言語の壁を乗り越え、コミュニケーションができたことが非常に嬉しかった。日本にいて「語学」を学んでいるだけだと忘れがちだが、それをを用いて様々な人とコミュニケーションが取れるからこそ、語学は楽しいのではないだろうか。中国語だけでなくロシア語も含め、もっと語学に真剣に取り組んで、様々な出自を持つ人と交流できるようになりたいと思った。

二つ目は、台湾、ひいては中国の歴史に興味を持ったことである。自由時間に観光としてたくさんの史跡を訪れた。これまでは全く知らなかった台湾の歴史だが、詳しい友達による解説もあり、その複雑さに興味を惹かれた。また、歴史認識の問題とあいまって、国民のアイデンティティに関する意識が沖縄のそれと似ていて親近感を覚えた。中正紀念堂や故宮博物館などを訪れ、実際に見て触れたものとリンクさせながら歴史を学んだことで、より強く興味を持てたと思う。これから台湾や中国の歴史に関する本を読み、さらに理解を深めたい。

三つ目は、積極性の重要性を実感したことである。個人的に私は南北朝・室町時代が好きなのだが、南北朝時代の研究者で国立台湾大学に奉職していらっしゃる亀田俊和先生にメールを送り、実際にお会いしてお話を聞くことができた。南北朝時代に関する質問から進路の話まで、貴重なお話をたくさん聞かせていただいた。今回勇気を出してメールを送らなければ終わっていたはずなので、貴重なチャンスを生かすためには積極的に行動することが大切なのだ、ということ学んだと思う。

この三週間で、私は、私の中の世界を大きく外に広げることができた。興味の対象が増え、その分世界が広がったと感じる。将来は言語学を専攻したいと考えているが、中国語の仕組みや漢字についても興味が深まり、その思いを新たにした。三週間という短い期間ではあったが、様々なことを学び、経験することができた、とても有意義で楽しい留学になったと思う。